

時に口にしたスイカ、メロンの味がたまらなく懐かしく思い出される。

## 抑留中の作業と出来事

岐阜県 長江 幸平

主として炭坑の石炭掘りであり、ロシア人の囚人と共同作業をしました。度々落盤事故があり、多勢の死者が出ました。

また、マラリアが蔓延し、多くの病人が出ました。それがその後どうしたのか一切我々には教えてくれませんでした。

発電所が近くにあったのを覚えています。

非常に雨の少ない土地で、夜、南京虫に悩まされ、外で寝たこともあります。

満天の星を眺めながら遠い故郷を偲んだものです。

ある時、仲間のツルハシが足に当たり右足を骨折したことがあります。幸いにも九州医大の外科の先生

の治療を受けることができ、助かりました。

一度、現地と先生の所へ訪ねてみたいと思っておりますが、今のところその機会がなく残念でなりません。

## 私のシベリア抑留

岐阜県 河合 猛

岐阜県土岐市駄知町生。

昭和十一（一九三六）年、瑞浪尋常高等小学校卒業。

昭和十八年九月、満州遼陽飛行場大隊入隊。

昭和二十年、終戦とともにシベリアに抑留され、ソビエト連邦アングレンにて炭坑等の作業に従事。

昭和二十三年二月、帰国する。

今、思い出してもゾットするような生き地獄を味わった。幸いにも命あって日本へ帰れたのは幸運だったと感謝している。

全抑協発足以来率先して様々な行事に参加しているのも、生きて帰った者の務めとして、元気なうちは頑張っていこうと思っている。

一度抑留地を訪ねて慰霊をして来たいと考えているが、残念ながら体力がなく、その願いは果たせずにいる。

今の世相を見ると誠に悲しいと言うか、情けないと言うか、古き良き時代の日本はどこへ行ってしまったのか、もう一度美しい堂々たる日本にしてほしいと、今はただそれだけを念願している。

幸いにも私たちはこのすばらしい仲間が多勢いる。力を合わせてこの運動を推進してゆきたいと考えている。

## シベリア抑留記

岐阜県 加藤 嘉 貞

大正十二（一九二三）年十一月十四日、土岐市駄知

町に生まれる。

昭和十三（一九三八）年三月、駄知尋常高等小学校卒業。

〃 十三年四月、駄知町駄知殖産株式会社に就職。

〃 十六年六月、陸軍兵器学校に入校。

〃 十八年十月、〃 卒業。

〃 〃 十一月、満州国凶門通過。

満州第十六野戦自動車廠に転属。

〃 十九年十月、満州第一三〇四一部隊転属。

〃 二十年八月、終戦。

〃 〃 十月、ブラゴエシチェンスクよりチェレンホーボ付近の収容所に入る。

主として炭鉱の採炭作業に従事する。

二十一年秋頃のことですが、その作業のうちに発疹チフスにかかり入室、治療を受けるも栄養失調となり、体力四級（OKA）と診断され、作業はなしとなりました。その期間中に七百人入所した戦友たちのう